

沼津市

明治史料館通信

1999. 10. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 15 No. 3 通巻第59号



東京農学校の職員・生徒（森元一氏所蔵）

最前列右から6人目校長横井時敬、7人目渡瀬寅次郎、前から2列目左端森信吾。森信吾（1880～1937）は駿東郡浮島村の人で、同校の第5回生として明治31年（1898）7月に卒業しているの、この写真もそれ以前のものとなる。

シリーズ

沼津兵学校とその人材

育英齋と

沼津兵学校の人脈

55

東京都世田谷区にある現在の東京農業大学は、明治二十四年（一八九二）に設立された私立育英齋を前身としている。育英齋は、旧幕臣と静岡県人の子弟の進学奨励のためにつくられた静岡育英会（明治十八年発足）が設立母体となり生まれた。静岡育英会の事業は東京で勉学する学生のために奨学金を支給することが主だったが、学校経営にも手を伸ばしたのである。学科には普通科と農業科・商業科があったが、明治二十六年（一八九三）には農業科が独立し東京農学校となった。同校は翌二十七年には静岡育英会の手を離れ、三十年（一八九七）には大日本農会の経営に移管されることになる。

育英齋の校主（管理長）は、静岡育英会長でもあった榎本武揚がつとめた。齋長の職は永持明德（初代）、伊庭想太郎（二代）がつとめた。永持は沼津兵学校三等教授から陸軍砲兵中佐になった人。伊庭

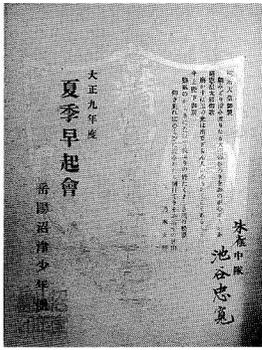
ぬまづ近代史点描 ④

岳陽少年団に関する補足

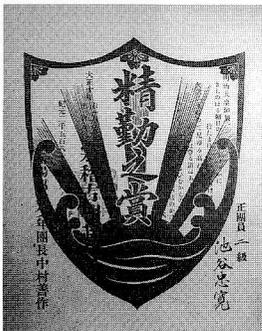
九月二十九日まで開催していた企画展「岳陽少年団」と図録『図説岳陽少年団』において紹介できなかった事実を、以下補足としていくつか示したい。

① 沼津小学校長中村善作の碑

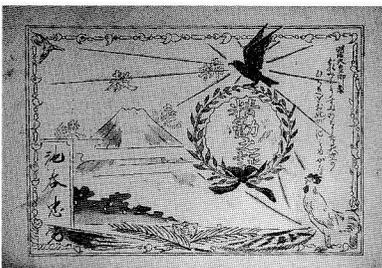
岳陽少年団の初期の発展段階において、いち早く理解を示し、学校と少年団との一体化を図ったという意味で、沼津尋常高等小学校長中村善作が果たした役割は大きい。沼津市斎場の墓地にある渡辺水哉初代岳陽少年団長の墓の周囲には、関係者が建てたその他の石碑が幾つもあるが、その一つに中村善作校長の事績を彫ったものが



夏季早起會精励之賞
(池谷忠寛氏所蔵)



寒稽古精励之賞
(池谷忠寛氏所蔵)



払曉教練精励之賞
(池谷忠寛氏所蔵)

有志によるボーイスカウトとは違う、学校少年団(小学校と一体化した少年団)としての性格から、岳陽少年団傘下の加盟団の団長(分

ある。以下がその全文である。

岳陽沼津少年団ノ心身鍛練諸行事ヲ小学校児童訓練ニ融合セシメ其実績ヲ拳ゲタルハ沼津小学校長中村善作先生ナリ 其実況ヲ視察セントシ東京ヲ初メ近県ハ元ヨリ遠ク東ハ群馬秋田西ハ山口鹿児島等ノ諸府県ヨリ来觀スル者多ク遂ニ本県学務部長ノ懇請ニ依リ静岡城内小学校ニ榮転セラル 聖上陛下昭和五年五月県内御巡幸ノ砌リ元静岡県知事其当時宮内次官関屋貞三郎閣下ノ推薦ニ依リ静岡行在所ニ於テ御陪食ノ光榮ニ浴セリ 是ハ小学校長トシテ嚆矢ノ事ナリト

② 若山牧水と岳陽少年団

陸軍退役後渡辺水哉が楊原村上香貫字寺の前に移住したのは明治四十三年(一九一〇)のこと。それより十年余り遅れ、大正九年(一九二〇)、渡辺邸の西隣に移り住んだのが歌人若山牧水だった。牧水は十四年(一九二五)に同じ沼津市内の市道に転居するまで、渡辺団長の隣人だったのである。そんな関係からであろう、大正十二年十二月五日発行の岳陽少年団機関誌『木太刀の唸』創刊号(湘東文庫所蔵)に、「岳陽少年団々員諸君のために」という短歌を寄せている。

とはすな男の子等よやよ
・雄々しかれわが日の本の常若に
若きを守る男の子等よやよ

大正十一年(一九二二)二月の校長会への郡長諮問を契機に、岳陽少年団は駿東郡内の小学校に漏れなく結成されるようになった。ところが、同年十一月時点で唯一、岳陽少年団に属さない小学校があった。原尋常高等小学校である。同校にはその代わり「原少年修養会」という組織があった(駿東郡教育概観)。校長を会長とし、十一、十五歳の男子二百八十一名、女子二百四十八名から成るその組織の実態までは不明である。

昭和十五年(一九四〇)時点では原にも岳陽少年団が存在していたことがわかってはいるが、いつ結成されたのかは不明である。いずれにしても、他地域よりも遅れて結成されたと思われる。

④ 小学校長以外の団長

有志によるボーイスカウトとは違う、学校少年団(小学校と一体化した少年団)としての性格から、岳陽少年団傘下の加盟団の団長(分

団長)は小学校長がつとめた。しかし、例外的に初期においては軍人が団長をつとめたりしている。

大岡少年団長になった陸軍工兵少佐平山伝太郎の例である(任期大正六年五月四日〜八年七月)。同村の場合、海軍中佐中村松太郎(旧幕臣・海軍教育者中村六三郎の子ら、有力軍人が沼津少年団大岡中隊時代から熱心に指導を行っていたためである(「岳陽大岡少年団記録」日吉区有文書)。

⑤制服は採用されたか?

児童全員を団員とする岳陽少年団の場合、余計な経済的負担を強いる制服の導入は行われなかった。しかし、傘下の個別団によっては制服を作った場合もあったらしく、岳陽泉少年団(現裾野市立東小学校)では、大正十四年時点でカーキ色の上着・半ズボンにネクタイをした団員の姿が卒業写真に収められている(『いづみ』一九七九年)。少年団日本連盟との間に亀裂が生じる前の大正期には、ボーイスカウト・スタイルを採用することは全面的には否定されていなかったのかも知れない。

江原素六とその周辺(35)

星一からの手紙

シヨート・シヨートという作品スタイルを開拓したSF作家である星新一(一九〇六〜一九七七)に、『人民は弱し官吏は強し』(一九六七年刊、現在新潮文庫)という著書がある。父親の星一を主人公にした伝記文学である。

アメリカ留学から帰国後、明治末期に製薬会社を興した星一(一八七三〜一九五二)は、日本で初めてモルヒネの精製を手掛けるなど、自由な発想で事業に成功するが、官僚や反対派による陰湿ないじめを受け続け、やがて窮地に追い込まれていくという、タイトル通り、官尊民卑の時代に苦闘した実業家の苦難の生涯が描かれた作



星 一

品である。

沼津市明治

史料館所蔵の

江原素六関係

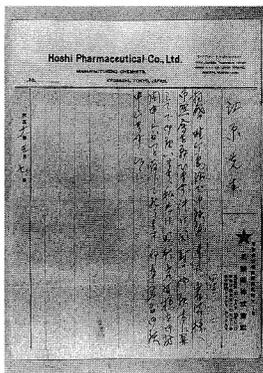
文書の中に、大正十一年(一九二二)三月七日付の星一の手紙が残されている(E-a-56)。会社の便箋一枚にペン書きされたものであり、文面は以下の通り。

江原先生 星一

拝啓 昨今電話で御願致しました、岩崎様へ御照会を願ひます件は同封の御願書に關してで御座います。私共は明朝岩崎様を御訪問申上度いと存じて居ります、何卒宜敷御願申上ます 以上

大正十一年三月七日

残念ながら封筒もないし、文中で述べている同封の「御願書」も



残されていない。従って何を意味する手紙なのかはよくわからない。紹介を依頼されている「岩崎」とは誰のことであろうか。

星は一時衆議院議員もつとめているが、後藤新平との関係が強く、立憲政友会に入会はしていない。従って政治家としては江原とはそれほど近かったとはいえない。大正十三年(一九二四)の総選挙では立憲政友会の要請で立候補したが(落選)、無所属だった。

星一は福島県の生まれ。東京商業学校卒業後、渡米、コロンビア大学に学びマスター・オブ・アーツの学位を取得。明治三十四年(一九〇一)に帰国した後、星製薬株式会社を創業したほか、星薬学専門学校(星薬科大学)を設立した。明治四十一年(一九〇八)には衆議院議員に当選。戦後は参議院議員になっている。

沼津市明治史料館通信 第59号

編集 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂三七二一
電話 〇五五九-二三三三三五
FAX 〇五五九-二五三〇一八